

平成 28 年度広島県大学図書館協議会事業報告

1. 会議

1. 平成 28 年度総会
日時：7 月 4 日（月）13：30～17：00
会場：近畿大学工学部 メディアセンター1F H120
（当番館：近畿大学工学部図書館）
参加：26 機関 47 名
2. 幹事館連絡会議 第 1 回 6 月 10 日
3. 研修企画委員会 第 1 回 6 月 10 日
4. 共同リポジトリ委員会 第 1 回 12 月 2 日
第 2 回 2 月 28 日
5. 広島県内図書館連絡会議 12 月 21 日

2. 研修会

研修会

第 1 回

日時・会場：平成 28 年 9 月 16 日（金） 広島経済大学 立町キャンパス
テーマ：「教育・学修支援としての図書館サービスをデザインする
“アクティブラーナー”を育てる情報リテラシー教育」

第 2 回

日時・会場：平成 28 年 12 月 9 日（金） 安田女子大学 新 1 号館 1 階
テーマ：「図書館におけるコミュニケーションの取り方について考える
～カウンターで、利用者に対して、職場の中で～」

3. 事業

1. 協議会ホームページの運用
2. 共同リポジトリ（HARP）の稼働
3. 「ひとめでわかる広島県大学図書館協議会（通称：ひとめマップ）」の更新
4. ビブリオバトル広島地区予選・決戦の開催
「全国大学ビブリオバトル 2016～京都決戦～」(※) に広島県内の大学生・大学院生が参加できるような環境を整えることを目的に協議会事業として（平成 28 年度総会承認）以下の通り実施した。
(1)広島県立図書館が予選会主催団体として予選会事務局（ビブリオバトル普及委員会内）に申請を行い、広島県立図書館・広島県大学図書館協議会・広島県立図書館友の会主催で地区決戦を開催。

(2)二者の役割

広島県立図書館：予選会事務局との連絡調整・報告、地区決戦の開催、広報。

広島県大学図書館協議会：各大学間の連携、予選会の開催、広報。

(3)広島県大学図書館協議会内の実施体制

- ・協議会事業として予選会開催大学を募集した。
- ・当初広島大学を含め 10 大学の応募となったが、ビブリオバトル普及委員会より、「地区決戦への出場者は 6～9 名とし、9 名を超える場合は、別の地区決戦への調整、もしくは地区決戦の前に準決勝を開催する」との通知があったため、広島大学が予選会開催を見送った。
- ・予選会を 8 大学（1 大学中止）で開催した。
- ・広報等を連携して行った。
- ・本協議会主催の地区予選会チャンプについて、地区決戦会場（広島県立図書館）への旅費を支弁した。

(4)開催状況

予選会開催大学	チャンプ本	出場者数	観戦者数
県立広島大学	『虐殺器官』（伊藤計劃作）	4 名	30 名
比治山大学	『アンマーとぼくら』（有川浩著）	4 名	24 名
広島市立大学	『こんな夜更けにバナナかよ』（渡辺一史著）	4 名	30 名
福山大学	『乱反射』（貫井徳郎著）	5 名	14 名
広島工業大学	『嫌われる勇気』（岸見一郎，古賀史健訳） 地区決戦出場：『ニーチェが京都にやってきて 17 歳の私に哲学のこと教えてくれた。』（原田まりる著）	5 名	35 名
呉工業高等専門学校	『ガリア戦記』（ユリウス・カエサル著 中倉玄喜／訳・解説）	4 名	14 名
福山市立大学	『黒い雨』（井伏鱒二著）	5 名	23 名
広島経済大学	『ニーチェが京都にやってきて 17 歳の私に哲学のこと教えてくれた。』（原田まりる著）	5 名	45 名

※地区決戦チャンプ本：

中国 A 『パンダを自宅で飼う方法 珍獣ペット化シミュレーション』（宮田珠著）

発表者：公立鳥取環境大学 海野 秀

中国 B 『王とサーカス』（米澤穂信著）

発表者：尾道市立大学 小池 夏美

中国 C 『こんな夜更けにバナナかよ』（渡辺一史著）

発表者：広島市立大学 田中優菜

平成 28 年度広島県大学図書館協議会総会議事録

日時：平成 28 年 7 月 4 日（月）13:30～16:10

会場：近畿大学工学部 メディアセンター1F・マルチメディア講義室

参加：加盟館 26 機関 47 名 + オブザーバー（県立図書館 1 名）

1. 開会 当番館 近畿大学工学部

2. 挨拶 当番館 近畿大学工学部メディアセンター長 松富 達夫
代表幹事館 広島大学図書館部長 高橋 努

3. 議長選出

慣例により、当番館のメディアセンター長の松富 達夫を選出した。

4. 報告

(1) 平成 27 年度事業報告

代表幹事館の広島大学 山根図書学術情報整備グループリーダーから、平成 27 年度の事業として総会、各委員会等の開催、研修会等について報告があった。

(2) 平成 27 年度研修企画委員会活動報告

研修企画委員長の広島修道大学 木村図書課長から平成 27 年度の活動報告があった。

(3) 平成 27 年度共同リポジトリ委員会活動報告

共同リポジトリ委員長の広島工業大学 森保事務長から平成 27 年度の活動報告があった。

(4) 平成 27 年度広島県内図書館連絡会議

広島県内図書館連絡会議委員館の比治山大学 福田図書課長から、平成 27 年 12 月 16 日に広島県立図書館において開催された連絡会議の概要が報告された。

5. 各館活動報告（各館、2 分以内）

参加機関の代表から、平成 27 年度に取り組んだ教育支援、研究支援、社会貢献、管理運営について報告がなされた。その後次のとおり質疑応答があった。

福山市立大学から「開館時間 8:45 について」経緯・意見を伺いたいとの質問があり、近畿大学工学部、日本赤十字広島看護大学から回答があった。

広島大学から比治山大学へ「利用者がうなぎのぼりに増加した理由について」質問があり、主な理由として学生用 PC40 台の設置、ラーニングコモンズの学習スペース、アクティブラーニング（グループ課題）による授業による影響との回

答があった。

広島国際大学から「福袋の OPAC 表示」について質問があり、比治山大学から OPAC 表示は考慮していないが、福袋にはバーコードを貼付しているとの回答があった。続いて福山大学へ「キャラクターの作成(商標権)と相互貸借料金の無料化」について質問があり、福山大学からキャラクターは学生が作成し、学内利用であるとの回答があった。相互貸借料金の無料化については学生のみ、利用制限は行っていないと回答があった。

6. 協議

(1) 平成 27 年度決算書 (案) 及び監査報告について

代表幹事館の広島大学 上田主査から平成 27 年度の決算報告が行われた後、監査館である県立広島大学 川原田学術情報センター長から監査報告が行われ、異議なく承認された。

(2) 平成 28 年度事業計画 (案) について

代表幹事館の広島大学 山根グループリーダーから平成 28 年度の会議予定及び 2 回の研修会開催についての説明、またビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施について説明があり、異議なく承認された。

(3) 平成 28 年度予算書 (案) について

代表幹事館の広島大学 上田主査から平成 28 年度予算案が提案され、原案通り異議なく承認された。

(4) 申合せ事項の一部改正について

代表幹事館の広島大学 高橋図書館部長から広島県大学図書館協議会申合せ事項の一部改正について提案がされ、原案通り異議なく承認された。

(5) 平成 28 年度役員館などの選出について

代表幹事館の広島大学 舟本図書館学術情報普及グループリーダーから次の説明があり、幹事館選出は選挙、幹事館以外は推薦の後、承認された。

(5-1) 幹事館選出

幹事館は任期 2 年で今年度が改選の時期。慣例により選挙によって改選を行う。鈴峯女子短期大学から自校は平成 28 年度閉学予定であるが、幹事館選出対象となるかとの質問があり、協議の結果、幹事館選出は鈴峯女子短期大学を除く選挙とした。

投票後、別室で開票。開票立会は、広島大学、広島経済大学、広島修道大学。

(5-2) 幹事館以外の選出

監査館は輪番で広島市立大学。

企画研修委員館は、昨年度に引き続き広島大学、福山市立大学、日本赤十字広島看護大学、広島経済大学、広島修道大学、比治山大学、広島文教女子大学、広

島商船高等専門学校。委員長館は広島修道大学。

共同リポジトリ委員館は、今年度まで任期のため改選なし。

広島県内図書館連絡会議委員館は、昨年度に引き続き広島市立大学、比治山大学、安田女子大学。

(6) 次期当番館について

役員館の選出と同様、代表幹事館の広島大学 舟本グループリーダーから説明、推薦があり了承された。

総会会場順次表により輪番で海上保安大学校。

(7) 開票結果について

議長から6. 協議(5)平成28年度幹事館選出について次のとおり開票結果が報告された。

国立大学の部 広島大学

公立大学の部 県立広島大学

私立大学の部 1位 広島経済大学、2位 広島修道大学、
3位 広島工業大学と安田女子大学

短期大学の部 呉工業高等専門学校

なお、私立大学の部で票数が同数で3位となった2校が協議を行なった結果、広島工業大学に決定した。

(8) 代表幹事館の選出について

新幹事館の推薦により、広島大学が代表幹事館に選出され、承認された。

7. 承合事項

最初に広島都市学園大学から提出があった「新聞及び雑誌の廃棄方法について」趣旨説明と各館から回答があった内容について広島都市学園大学 森田司書からコメントと謝辞があった。

続いて広島女学院大学から提出があった「図書館職員における司書資格の必要性について」も趣旨説明と各館から回答があった内容について広島女学院大学 麻尾図書課長からコメントと謝辞があった。

8. その他

(1) オブザーバーとして参加の広島県立図書館 正井事業課長から、

- ・「全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～」について
- ・リニューアルした県立図書館ホームページについて
- ・横断検索について

説明があった。

(2) 福山市立大学から「大学図書館問題研究会第47回全国大会 in 広島」8月27日~29日開催について説明と資料配布の案内があった。

9. 閉会

次期当番館の海上保安大学校 吉田館長から当番館受託と閉会の挨拶があり、閉会した。

以上

平成28年度広島県大学図書館協議会研修企画委員会活動報告

1. 研修会

第1回

日時：平成28年9月16日（金）

会場：広島経済大学 立町キャンパス

テーマ：「教育・学修支援としての図書館サービスをデザインする

“アクティブラーナー”を育てる情報リテラシー教育」

講師：野末 俊比古 氏（青山学院大学 准教授）

参加：19機関 29名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2016/10/2809ques.pdf>

第2回

日時：平成28年12月9日（金）

会場：安田女子大学 新1号館1階

テーマ：「図書館におけるコミュニケーションの取り方について考える

～カウンターで、利用者に対して、職場の中で～」

ファシリテータ：木村千鶴（研修企画委員長、広島修道大学図書館）

第1部 ワークショップ：コミュニケーションについて、バーバルコミュニケーション、
ノンバーバルコミュニケーション、傾聴練習

第2部 ワールドカフェ：テーマ「図書館におけるコミュニケーションを考える」

参加：20機関 30名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2016/12/2802quest.pdf>

2. 評価と課題

第1回

平成24（2012）年8月28日付けの中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」には、主体的な学修を促す能動的学修（アクティブラーニング）などが取り上げられている。また、「学修支援環境の整備についての課題」には、図書館の充実も謳われている。それらの取り入れ方、具体的に実施する方法について、青山学院大学の野末先生をお招きし、ワークショップを交えた講演を実施した。アクティブラーニングとは何かという、基本的なお話から始まり、参加者がアクティブ

ラーニングを体験することで、学生の気持ちを理解しながら、情報リテラシー教育について学ぶことができた。また、その中から、各館の状況に応じて具体的にどのように進めて行けばよいか、というアイデアについても、持ち帰ることができる内容であった。

アンケートによると、非常に有意義であったが 88%、有意義であったと合わせると 100% となり好評であった。

第 2 回

図書館で様々なサービスを提供する中で、これまではあまり注視されていなかった「コミュニケーション」について見なおす研修会を実施した。利用者への言葉のかけ方、注意の仕方一つで、利用者の図書館に対する印象、学習に対する意欲、動機づけも変化する。

第 1 部では、よりよいコミュニケーションをとるために、アイスブレイク、優先感覚別のグループ分け、伝言ゲームなどのワークなどを行い、まず、自分自身を見直し、他者との違いを認め、他者を認めるということを理解していただいた。施設見学を挟み、第 2 部では

図書館におけるコミュニケーションをテーマとしたワールドカフェ、発表を行った。学生と

図書館員、教員と図書館員、館員どうしなど、話題は広がり、盛況であった。

アンケートによると、第 1 部、第 2 部とも非常に有意義であったが 88%、有意義であったと合わせると 100% となり好評であった。また、図書館の規模に関係ない「コミュニケーション」というテーマであったことから参加しやすかったとの意見を複数いただいた。

平成 28 年度共同リポジトリ委員会報告

HARP 参加機関数

16 機関

第 1 回委員会 (拡大)

【日 時】 平成 28 年 12 月 2 日 (金)

【場 所】 広島大学中央図書館

【出席者】 13 大学 18 名

【議事】

1. 協議

(1)機関リポジトリのシステム更新・会費と HARP の今後について

第 2 回委員会

【日 時】 平成 29 年 2 月 28 日 (火)

【場 所】 広島経済大学

【出席者】 6 大学 9 名参加

【議事】

1. 協議

(1) 平成 30 年度の共同リポジトリサーバ更新後 5 年間の運営について

(2) その他

アンケートの実施

・ 2018 年以後の HARP システムの継続についての参加館の意向調査

【対象館】 共同リポジトリ参加館 (16 館)

【回答数】 16 館

平成 28 年度第 1 回広島県大学共同リポジトリ委員会 議事要録

日 時 平成 28 年 12 月 2 日 (金) 10 時 30 分～11 時 50 分

場 所 広島大学図書館中央図書館 図書館長室

出席者 13 大学 18 名参加 (拡大委員会とし、HARP 参加館が出席)

開会

広島工業大学・共同リポジトリ委員会 森保委員長の挨拶により開会。

議事

1. 協議

(1) 機関リポジトリのシステム更新・会費と HARP の今後について

森保委員長により配布資料に基づき説明があり、その後 HARP の継続を前提としてシステム更新と会費について意見交換を行った。

<補足>

・現在の残金については、次期 Junii への対応などのシステム改修、解散時の猶予期間等のために維持をする。

<決定事項>

- ・本委員会より HARP 加盟館へ HARP 継続に関する意向について調査を行い、その結果に基づき本委員会にて HARP の継続について決定する。
- ・平成 29 年度県大図協総会での HARP 年会費改正承認、平成 30 年度の会費改正に向けて、システム更新・会費について検討を続ける (2-3 月を目途に第 2 回委員会を開催する)。

<議論>

- ・会費の考え方 (傾斜配分) については、おおむね同意が得られた。
- ・(質問)次期サーバを広島大学に置くことは本当に可能なのか。(回答)次は可能だが、次の次はわからない。次のサーバを導入してしまえば 5 年程度は設置できる。
- ・(質問)構成員の考え方について、博論等もあるので大学院生も入れてもよいのでは。(回答)煩雑さを避けるため JAIRO Cloud に合わせる形にした。
- ・(質問)これから加盟館が増えることはあるのか。(回答)積極的な宣伝は現在は行っていないが、リポジトリを持っていない大学等もあるため可能性はある。

また、(1)の後、平成 29 から 30 年度の共同リポジトリ委員館、委員長について発議があった。長期間の固定化を避けるためにも 3 期程度、委員館を務めた館は可能な範囲で交代する方向で検討を行った。決定については今後の検討とする。

以上

平成 28 年度第 2 回広島県大学図書館協議会共同リポジトリ委員会 議事要録

日 時 平成 29 年 2 月 28 日 (火) 15 時 30 分～17 時 00 分

場 所 広島経済大学図書館 研修室 2

出席者 6 大学 9 名参加 (委員館のみで開催)

開会

広島工業大学・共同リポジトリ委員会 森保委員長の挨拶により開会。

議事

1. 協議

(1) 平成 30 年度の共同リポジトリサーバ更新後 5 年間の運営について

事務局より資料 1 のとおり提案があり、以下のことを考慮するという条件で、提案どおりに認められた。

- ・ 会費ならびに協議会からの補助金の改正 (増額) を総会で提案する際には、その根拠となる説明資料を添付する。
- ・ 協議会から引き続き補助金を支出することの説明材料として、HARP の活動内容にはサーバ運用だけでなく参加館だけに限らないコミュニティ (勉強会など) の側面があることもふまえる。

(2) その他

(2-1)平成 29・30 年度の共同リポジトリ委員館について

平成 27・28 年度の委員館から比治山大学と広島経済大学を退任予定として、広島都市学園大学と広島国際大学へ新規に委員館の打診をすることが確認された。打診する両大学から内諾が得られない場合は、追って検討を行う。

以上

平成 30 年度の共同リポジトリサーバ更新後 5 年間の運営について（提案）

1. 次期 5 年間の参加館について

1. 1 提案

- (1) 現参加館は参加を継続するとして今後の検討を進める。現参加館には、HARP を離脱する場合は十分事前に本委員会への申告を行う事を依頼し、状況変化に備える。
- (2) 時々の状況に鑑み、5 年未満の状況であっても JAIRO Cloud など別システムへの一斉移行を検討する。
- (3) 未参加館への積極的な勧誘は行わないが、新規参加は継続して受け付ける。

1. 2 理由

- (1)については、参考 1 設問 2 より、全ての機関が参加継続を予定しているため。
- (2)については、参考 1 設問 2,7 のような意見があるため。
- (3)については、JAIRO Cloud も HARP も参加をしていない機関に委員長より感触を聞いたところ、参加予定はないという事であったため積極的勧誘は行わない。ただし、県大図協の事業であり補助金も得ているため新規参加の受付は継続する。

2. サーバの運営方法（管理体制）について

2. 1 提案

- (1) 現在の体制を維持する（広島大学（事務局）にサーバを設置し、広島大学で管理を行う）。

2. 2 理由

参考 1 設問 3 より、過半数が広島大学への設置を希望しており、また、広島大も設置を内諾しているため。

3. 会費の変更（増額）について

3. 1 提案

- (1) 全参加機関一律で、22,000 円/年とする（7,000 円/年の増額）。

3. 2 理由

一律制では会費が高いほど、小規模校における JC に対する HARP の経済的優位性が低下するが、将来的に離脱機関はほとんど無いと考えられるなど、大幅な会費増額の懸念は小さい。また、離脱機関はわずかと想定されるはいえそれが規模の大きい機関であった場合、傾斜制では会費の増加幅が大きくなるという問題も生じる。

以上の理由から、参考 1 設問 5 では傾斜制を望む意見が過半数ではあるが、現段階では一律性の踏襲が妥当と考えられる。金額 22,000 円に関しては、参考 2 におけるサーバ購入時の試算を鑑み、1,000 円単位で会費を考えた際に、下表のように、これを上回る最低金額であるため。

一律 21,000 円の場合	一律 22,000 円の場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年間 21,000[円]×(16[機関]+1)=357,000[円] ・ 5 年間 357,000[円]×5[年]=1,785,000[円] (< 1,815,000[円]) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年間 22,000[円]×(16[機関]+1)=374,000[円] ・ 5 年間 374,000[円]×5[年]=1,870,000[円] (> 1,815,000[円])

4. 協議会からの補助金額について

4. 1 提案

(1) 3. 1 の(1)で提案した会費と同額の補助金額を依頼する。

4. 2 理由

県大図協加盟館にも JAIRO Cloud でリポジトリを構築する機関やリポジトリを持たない機関はあるが、県大図協の事業として行っていることであり、また、共同リポジトリサーバは県大図協の Web サーバも兼ねていることから、引き続き補助を依頼する。金額については慣習より会費と同額を依頼する。

広島県内図書館連絡会平成28年度会議議事録

1 日 時 平成28年12月21日（水） 午後1時30分～午後3時10分

2 場 所 広島県立図書館応接室

3 出席者

(1) 委 員

広島市立大学附属図書館 主幹 出原陽子

比治山大学図書館 図書課長 福田房子

安田女子大学図書館 図書課長 日比野政彦

広島市立中央図書館 事業課 館内サービス係長 千原真純

福山市中央図書館 司書 工藤文絵

広島県立図書館 調査情報課 図書利用係長 今岡亜樹子

(2) オブザーバー

広島県立図書館 館長 大原重秋

(3) 事務局

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ 主査 上田大輔

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ 主任 山下真佑美

広島県立図書館 事業課長 正井さゆり（広島県公共図書館協会事務局次長）

広島県立図書館 事業課司書 澄川起代子

4 議 題

(1) 広島県内大学図書館等と広島県内公共図書館の連携について

ア 広島県公共図書館協会事務局次長（以下、事務局次長）が、資料1及び資料2によって、大学図書館等との連携に関する公共図書館側の状況について説明した。

(ア) 資料1は、この会議に先立ち、広島県公共図書館協会加入館を対象に行った「大学図書館等との連携について」のアンケート結果である。9館から「事例あり」の回答があった。

(イ) 今年3月のシステム更新に合わせて、大学図書館から新たに県立広島大学及び安田女子大学図書館が「来いぶらりネット」の広島県内図書館横断検索データ提供館となった。

(ウ) 広島県公共図書館協会と専門図書館中国地区連絡会の共催で実施した「特別研修2」（図書館サービスと著作権に関する研修）について、大学図書館にも参加を呼び掛けたところ、2大学2名が参加した。

(エ) 昨年度に引続き、広島市立図書館と広島県立図書館が安田女子大学の図書館に関する科目のうち「図書館実習」を8月から9月にかけて行った。

イ 委員からは、次のような意見があった。

(7) 比治山大学では、県立図書館職員に司書教諭研修で講義をしていただいた。現場の声を聴くことができてよかった。教員が変わり、来年度も継続してあるかは分からない。

(4) 安田女子大学では、図書館実習の実習先として、公共図書館は人気が高い。受け入れていただけてありがたい。

(ウ) インターネット予約貸出しサービスの一部拡大にある「協力受取館」になっている大学図書館はまだ少ないようだ。来いぶらりネット参加館のうちデータ提供館になっている大学も少ない。安田女子大学は、自館のユーザを優先しつつ利用していただけており、大学側の負担は少ないことを実感している。もっとデータ提供館が増えてもよいと思う。

(エ) 県立図書館では、選定委員を大学教授（分野ごとに18名）に依頼している。この会議の際に、委員の先生に「広島県のことを調べる際に、来いぶらりネットの横断検索が便利である。大学図書館の参加が増えるとよい」という意見をいただいた。

(オ) 大学がデータ提供館になるメリットは何か。検索ができて、資料の貸出しには条件があるため、来館されても貸出しできないことがある。相互貸借で借りる場合は、近くの公共図書館から申込みをしてもらう必要がある。

(カ) (オ)について、事務局（公共）から「メリットとしては、学生や教授などが資料を探す際に、一括で検索ができること」が挙げられた。また、安田女子大学図書館の日比野委員から「当館では、一般の利用者は閲覧のみであるので、学生や教員には影響はなかった。公共図書館などには滅多にない資料の活用になる。大学の専門ジャンルを広く県民に見てもらえる。普及して行ってほしい。」と発言があった。

また、広島市立中央図書館の千原委員から「公共図書館では、利用者から問合せがあるとまず自館の資料をあたり、その後、他の公共図書館を探す。利用者から「大学図書館ではどうか」と尋ねられることもあるが、大学図書館を利用する際の説明は丁寧に行っているつもりである。大学図書館の横断検索への参加は、公共図書館の職員としては、期待しているところである。」と発言があった。

ウ 事務局次長が、大学図書館等に対して、3点の提案を行いたい旨を説明した。

(7) 「県内図書館等 新聞・雑誌総合目録」及び「相互貸借・文献複写取扱い」を、毎年度改訂するために、この作業に必要なデータを提供していただきたい。

(イ) 広島県内でのビブリオバトルの普及については、大学図書館等と協調して取り組むこととし、広島県大学図書館協議会事務局（広島大学）を窓口として協議していきたい。

(ロ) 研修会や講演会の類いを、公共図書館との共催で実施できるよう、或いは、各々が実施する研修会や講演会に「相互乗入れ」が可能となるよう、引き続き配慮していただきたい。

エ 委員（大学）からは、特に意見はなく、そのように進めてもらいたい、ということになった。

(2) その他

次のような情報交換等を行った。

ア 電子図書館サービスについて

(ア) 現在、地域リポジトリやMLA連携を視野に、電子図書館サービスについて検討している。大学図書館では資料保存のためのポータルサイト（例 しまね地域リポジトリ）などの構想はあるか。（広島県立図書館）

(イ) 広島県大学図書館協議会としては、今のところそのような構想はない。広島大学では、貴重資料の電子化を進めている。ポータルについての今後のイメージとしては、国立国会図書館にメタデータを送り、国立国会図書館が運用しているような大きなポータルで探せることが理想である。奈良文化財研究所が運営している全国遺跡報告総覧など、今後は、資料の種類別に大きなポータルに集めていくようになるのではないか。（広島大学図書館）

(ロ) 県内の大学の研究成果のポータルとしてはHARP（広島県大学共同リポジトリ）がある。地域研究の紀要はここに入ってきている。広島市立大学では、この他にポータルの構想はない。（広島市立大学図書館）

(ハ) 公共図書館では、電子書籍についての状況はどうか。県立図書館では、タブレットの貸出しが始まったと聞いた。大学では、コンテンツが少なく、利用も少ない。（安田女子大学図書館）

(ニ) (エ)について、次のとおり発言があった。

a 県立図書館では、タブレット10台を導入し館内貸出しをしているが、利用は伸びていない。中にアプリ等が入っているわけではなく、インターネットを利用した資料検索ができる程度で、依然としてデスクトップの利用の方が多い。

b 公共図書館では府中市、東広島市が電子書籍を導入しているが、コンテンツはまだ少ないと聞いている。

- (カ) 大学では、非来館でも学生や教員が自宅から見られるデータベースがあるのか。利用者は、来館しなくても見られるのが当たり前という感覚か。(広島県立図書館)
- (キ) (カ)について、次のとおり発言があった。
- a 実際に学生の利用があるかは不明だが、今はそれが普通のサービスである。研究者については場所を問わずにデータベースを使っている。広報は行き届いていない。シボレス認証の電子ジャーナルやデータベースが増えてきている。(広島大学図書館)
 - b 電子ジャーナルなどは、IDとパスワードを入れると認証される。自宅で見ても、大学図書館で見ても、利用には違いはない。(広島市立大学図書館)
 - c 当館は、大学に来ないと見ることが出来ない。大学生は大学に来なさいという考え方である。各大学それぞれにポリシーがある。(安田女子大学図書館)
 - d 電子ジャーナルなどは、学内LANに接続すれば閲覧可能である。自宅からでも一部については見ることができる。学生は図書館のパソコンから閲覧することが多い。(比治山大学図書館)

イ ビブリオバトルについて

- (7) 全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～に、中国Cブロック代表として学生が参加した。準決勝は、各小部屋で行われ、観戦者は自由に部屋を選ぶことができた。ビブリオバトルは読書推進のよいきっかけとなる。(広島市立大学図書館)
- (イ) 広島県大学図書館協議会、広島県立図書館、広島県立図書館友の会の共催で全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～中国Cブロック地区決戦を行った。その予選会への大学の参加は、年々増えている。地区予選会場数が8を超えると準決勝が必要となるため、今年は事務局でもある広島大学は辞退した。実際には、各大学で参加者の確保は難しい状況のようだ。毎年続けていけば、参加者も増えていくのではないかと思う。(広島大学図書館)

ウ 大学が現在力を入れていることについて

- (7) 英語の多読資料の購入。リーダーズが900冊程度入っている。学生や職員に英語を身近に感じてもらい能力の向上を図る。(広島大学図書館)
- (イ) 留学生に、日本語を話せない学生が増えている。そうした学生にも分かりやすいよう、図書館の構造やサインを改善していきたいと考えている。また、アクセシビリティを考えなければならない。障害がある学生にも不自由なく図書館利用ができる環境を整える必要がある。(広島大学図書館)
- (ウ) 教科書コレクション（主に江戸から昭和の教科書）をデータベース化し、公開作

業中である。(広島大学図書館)

(エ) 大学図書館と学生との協働を進めている。以前は学生ボランティアを募っていたが、何をさせたらよいか迷うことがあり消滅した。現在は、アルバイトと割り切り、図書館の夜間開館時に働いてもらっている。5限終了後の2時間。相互貸借資料の誤配架などがあり、どのあたりの作業までやらせるかが課題である。(広島市立大学図書館)

(オ) アクティブラーニングについて、各大学図書館から次のとおり発言があった。

a アクティブラーニングが進んでいる。2年前にラーニング・コモンズを設置した。利用は多く、来館者の2人に1人はそちらを利用している。(広島市立大学図書館)

b 全学的にアクティブラーニングに取り組んでおり、小さいラーニング・コモンズがある。常勤の教員は授業で取り組んでおり、グループでの来館が増え、入館者数も増えた。授業で利用があったことにより、学生が図書館の利用に慣れ、ラーニング・コモンズ以外の利用も増えたように感じる。また、図書館宝くじなど、来館によるお得感を感じられる仕掛けを考えている。(比治山大学図書館)

c 安田女子大学は図書館ではなく、大学として、ラーニング・コモンズを設置し学習支援をしている。ラーニング・コモンズは、図書館とは違う場所に、学習スペース、必要機材、人的サービスが用意されている。その分、図書館を学習スペースとしていた利用者が減少した。(安田女子大学図書館)

(カ) 大学の図書館であるので一般書などは少ない。そのため、司書が公共図書館をアピールし、利用案内している。公共図書館を案内する際に、広島県公共図書館マップは使える。データはあるのか。(安田女子大学図書館)

(キ) (カ)に対して、事務局(公共)から「PDFをホームページに掲載しているので利用していただきたい」と回答があった。(広島県立図書館ホームページ> 県内図書館等> 関係団体> 広島県公共図書館協会 http://www2.hplibra.pref.hiroshima.jp/?page_id=927)

エ 学生による図書館の利用傾向

学生は、読書の間というよりは、学習の間として大学図書館を利用している。そのため、大学図書館は学習支援の要素を求められている。その要素とは、資料、場所、人的サービスである。(広島大学図書館)